

事務局説明

令和3年10月13日(水) 教育委員会

事務局説明

- 1 前回の協議における意見（子どもの学びに関わる部分）
- 2 課題認識
- 3 施策の検討における視点
- 4 本日の協議の流れ

1. 前回の協議における意見(1) (子どもの学びに関わる部分抜粋)

社会が求めるスキルと学校の学びについて

・学校は何のためにあるのか

→ 社会で活躍できるように、必要な力やスキルをしっかりと育てていく

・これからの仕事に必要な力

①コミュニケーション能力

→ 自分の考えを様々な形で表現して相手に伝える力、相手の考えを読み解く力

②ゼロから物を創り出す力

→ マニュアル通りの仕事減、クリエイティビティが求められる仕事増

③その他

→ 知識や技能を獲得しようとする意欲・スキル、チームでの仕事

・デジタル・シティズンシップの考え方

→ ICT機器を活用しながら、データを活用するスキルを探究的な学びのプロセスに

※デジタル・シティズンシップ：市民としてどう生きていくべきかを考えさせ、責任あるICTの使い方と社会への貢献の仕方をしっかりと教えようというもの

子ども主体の学びについて

- ・子どものアウトプットの時間を確保するような学びにしていくことが大事。
 - 「先生によるインプット:子どもによるアウトプット」の比率を「3:7」へ
 - 「インプット・アウトプット・フィードバック」をセットにし、
このセットを何度も繰り返されるような学びに。
- ・授業の主役を「教師」から「子ども」へ
 - 「ティーチャー(教える人)」から「コーチ(学びを支える人)」へ
- ・子どもたちがそれぞれの学びの習熟度に合わせて、AIドリルを利用
 - ある程度、自動的に学びを深めていくということが大事。

2. 課題認識 ～「探究的な学び」につながる実践から～

資料2-①(松巾教育審議監)

学びの主体を真に子どもものものにしていく教育

これからの変化や子どもの願いに一層応えていく、学びの在り方とは



資料2-②(藍川小・藍川北中 中谷校長)

(仮)小中一貫校での実践とその成果と課題から

2-①. 課題認識 ～「草潤中学校」「ハイブリッド式授業」での実践から～

学びの主体を真に子どもものものにしていく教育

これからの変化や子どもの願いに一層応えていく、学びの在り方とは

- ▶ 1 不登校特例校 草潤中学校の半年間で見えてきたこと
- ▶ 2 Hybrid式授業(分散登校及びオンライン)に取り組んで分かったこと
- ▶ 3 学びの主体を真に子どもものものにしていくには

1 不登校特例校 草潤中学校の半年間で見てきたこと



1 不登校特例校 草潤中学校の半年間で見てきたこと

新たなよさ・
可能性の発見



自分らしい
ライフプラン



心身の安定

1 心身の安定・自立のための学び

ホッとできる時間や場所セルフコントロールスキルを身に付ける機会の充実

2 自分の新たなよさを発見する学び

自分の「好き」を見つける「セルフデザイン」

地域人材や大学等と連携して、これまでにない学びを提供する「産学ブース」

3 ICTを活用した学習者主体の学び

「取り組みたい学びを、好きな場所で！」学び直しや先行した学び可能

4 社会との絆を感じる学び

地域の方と一緒に作業

他の学校等との共同活動

Ⅰ 不登校特例校 草潤中学校の半年間で見えてきたこと

教科授業



セルフデザイン



1 不登校特例校 草潤中学校の半年間で見えてきたこと

ヘルスルームでオンライン学習

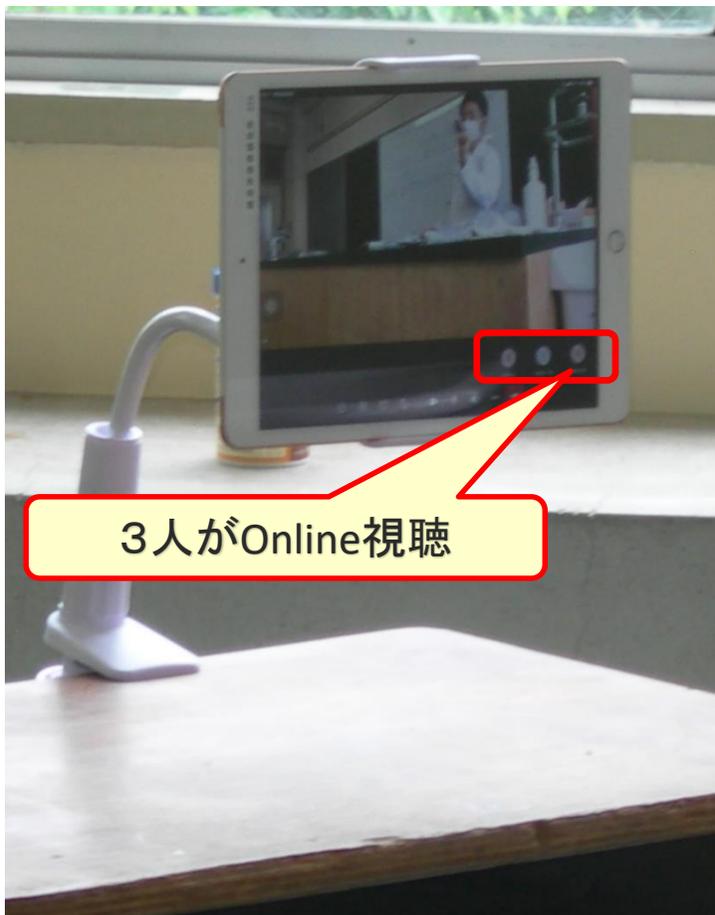


社会参画の時間



1 不登校特例校 草潤中学校の半年間で見てきたこと

全ての授業をオンライン配信



- 生徒一人ひとりの**学習状況や興味関心に応じた時間割**
- **生徒自身による学習方法や学習場所、昼食場所の決定**
- 生徒が**選んだ担任の先生との面談**
⇒本人の希望をじっくりと柔軟な姿勢で聞き、本人が決定する。
- 生徒一人ひとり（40通り）の**通知表**
⇒希望と進路決定の助言をもとに決める。

選択

責任

- ウォームアップとクールダウン効果
⇒**生徒の話したいことを聞く。**

対話

- 家庭に負担にならない家庭訪問や懇談
⇒学校に行かねばならないという思いにさせない。
- オンラインによる**つながり**

- イマここボードに記して**自分の好きな場所**に行ける。
- 学校が**初めて楽しい**と思った。
- **自分のペースでできる**、学校に通っていて**気が楽**。

- 入学する前は怖いと思ったけど先生たちが面白い。
- いろいろな子が話しかけてくるけど**好きなことが違って面白い**。
- **オンラインで受けられる**ので印象がかわった。

- **クールダウンの時に先生と話すことが好き**。
- 勉強するのに疲れたら図書館に行けるから好き。
- **自由で安心感**のある学校。
- この学校を希望したこと自体、一つの挑戦

自分が学びの主体であることの喜び

学びの主体を真に子どもものものに

対話

選択 責任

教師と生徒との**繋がり重視**
(個別選択複数担任制・WU・CD)

ルールを**自分で決定**
(持物・服装・髪型等)

対面

hybrid

オンライン

弾力的な教育課程
(社会参画・OL・セルフデザイン等)

個別最適な学び
(時間・学習内容・学習場所の**選択**)

2 Hybrid式授業 (分散登校及びオンライン) に取り組んで分かったこと



2 Hybrid式授業（分散登校及びオンライン）に取り組んで分かったこと

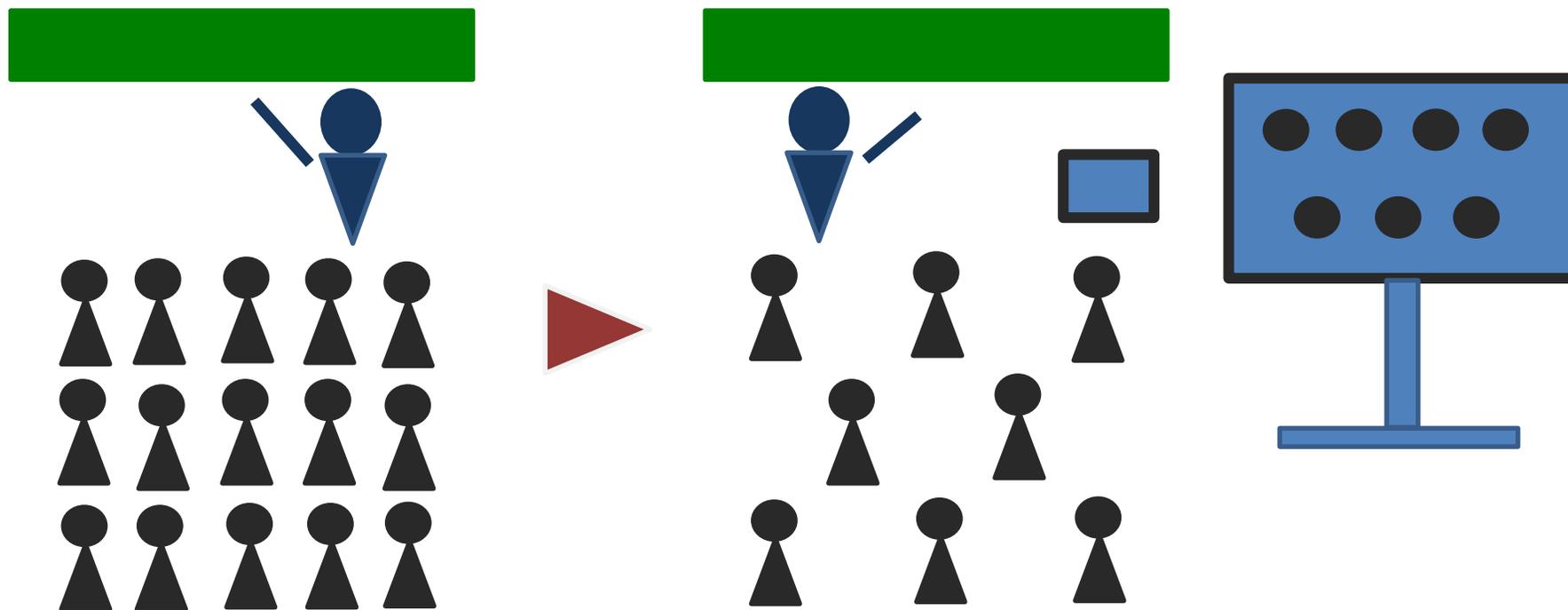
緊急事態措置区域 8月27日～9月30日

- **子どもの生命の安全を最優先する。**
- **子どもの学びを止めない最善策を講じる。**
- **新たな学びのスタイルを確立する契機とする。**

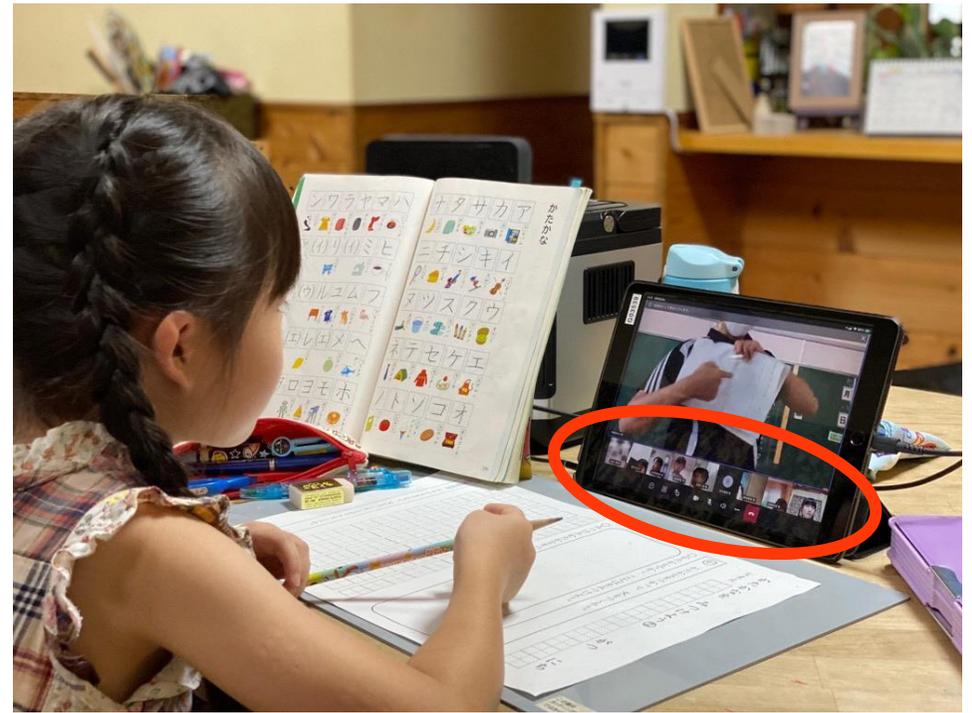
2 Hybrid式授業（分散登校及びオンライン）に取り組んで分かったこと

緊急事態措置区域 8月27日～9月26日

分散登校＋オンライン授業のHybrid式での運営



2 Hybrid式授業（分散登校及びオンライン）に取り組んで分かったこと



2 Hybrid式授業（分散登校及びオンライン）に取り組んで分かったこと

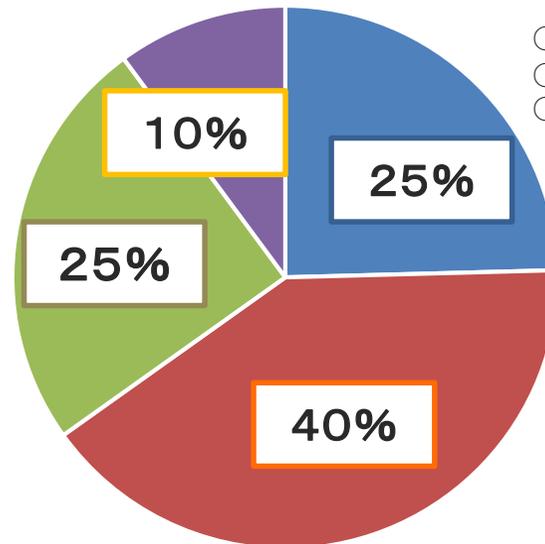
Hybrid式で授業を受けて満足できましたか。

○実施期間：令和3年9月6日（月）～10日（金）

○実施対象：市内小・中学校児童生徒

○調査方法：Forms（フォームズ）によるWebアンケート

○回答数：3,073名



- とても満足した
- 満足した
- 少し満足した
- 満足していない

- 先生たちが安心してオンライン授業を受けられるように努力してくれていると感じる。
- 授業のスタート時に「みなさんどうですか。」と確認してくれるので安心。
- 聞きやすい声で話してくれるので分かりやすい。
- 大きく映るようにしてくれたり、こまめにカメラの位置を変えてくれたり、板書の写真をとってTeamsに投稿してくれたりするので分かりやすい。
- オンラインの時に質問タイムを作ってくれたり、学校に行った時に「分からないところはなかったかな。」と聞いてくれたりするので、安心できる。
- 黒板だけでなく、みんなの学習している様子が見られるので、一緒に授業を受けている感じがもてる。
- 帰りの会にみんなで顔出しをして最後に「さようなら。」をするので、つながっている感じがしてよい。
- 普段学校に來れない子がオンライン授業だと参加できているのでよいなと思う。

- 時々、途中で途切れたり、見られなくなったりしてしまう事がある。
- だいたい聞き取ることが出来たけど、少し聞き取れない事があった。
- 家では色々な物があり、集中できない。友達とも、画面越しで、寂しい。

2 Hybrid式授業（分散登校及びオンライン）に取り組んで分かったこと

学びの主体を真に子どもものに

1

教えなければならないこと/任せた方がよいこと

2

やってみて子どもと教師が共にアップデートしていく

3

自身の学習環境の状況を子どもが発信しているか

2 Hybrid式授業（分散登校及びオンライン）に取り組んで分かったこと

1

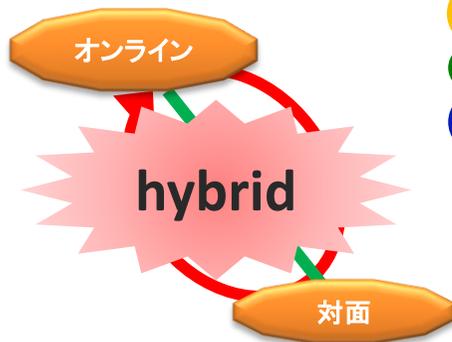
話していることは本当に伝わっているのか

2

取りこぼしている子はいないか

学びの主体を真に子どもものものに

1 一人一台タブレット端末を使ったオンライン支援



- ① 教えなければならないこと/任せた方がよいことの区別
- ② やってみて教師子ども共にアップデート
- ③ 自身の学習環境の状況を子どもが発信
 - ⇒ 何をどのように教えて、何をどのように考えさせるか。
 - ⇒ チャットやスタンプを利用し双方向のやり取りに留意する。
 - ⇒ オンラインの限界を知る。教師と子どもで活用方法共有
 - ⇒ 「聞こえていません。」「見えていません。」と発信

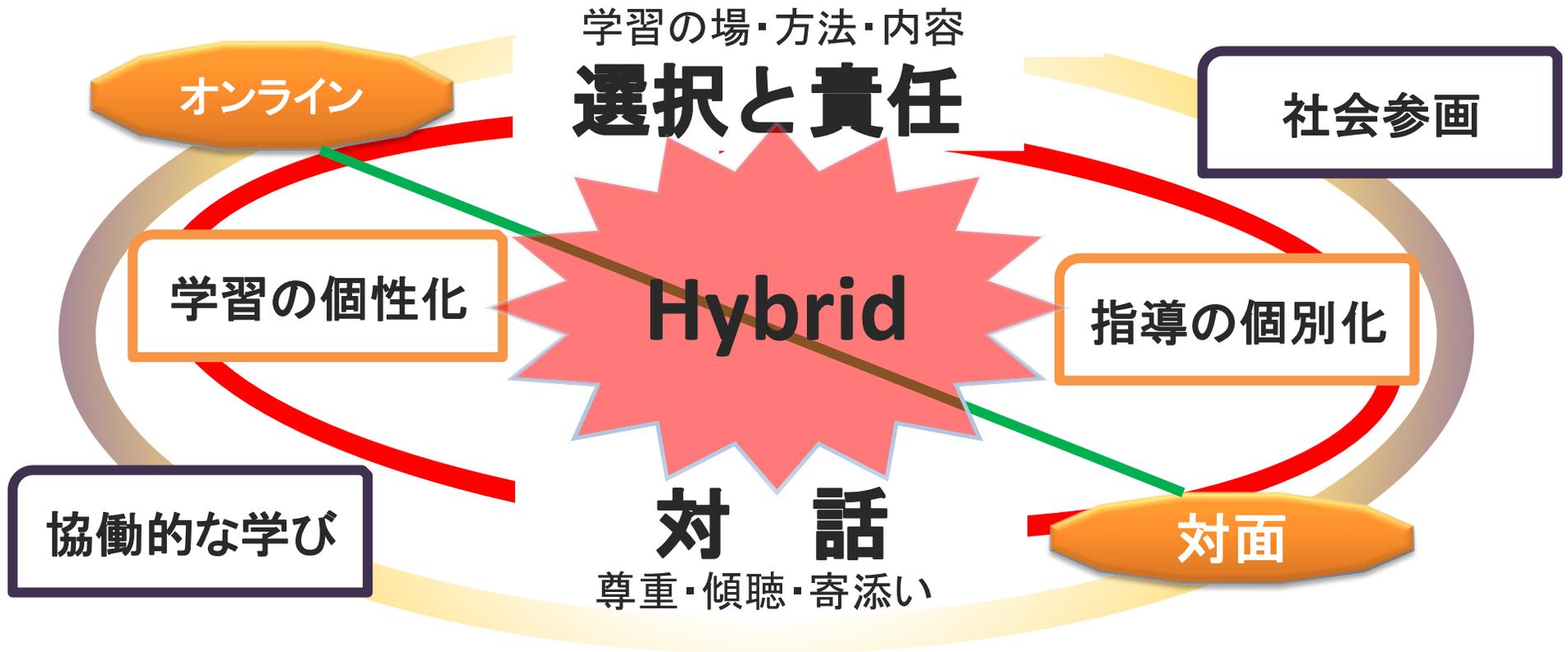
2 誰一人取り残さない学び

1) 一人一人の学びの状況の確認

- ① 伝わっているのか
 - ② 取りこぼしていないか
- 全ての授業をライブ配信できる環境整備の整備。

3 学びの主体を真に子どもものものにしていくには

学びの主体を真に子どもものものに



誰一人取り残すことなく、すべての子どもたちが、自らの才能を開花させ、
幸せな未来をつくりだすための力を身に付ける教育

3 学びの主体を真に子どもものものにしていくには

どこにいても
学べること

学校でしか
学べないこと

自分で
できること

教師(仲間)が
いなければ
できないこと

3 学びの主体を真に子どもものものにしていくには

Why School ?

岐阜市型小中一貫校

藍川北学園

小中学校の教育目標

立志・自主・連帯



藍川小学校と藍川北中学校は



平成27年度 小中一貫教育モデル校に指定



令和2年度 施設併設型 小中一貫校に指定

「藍川」という地域

美しい山々に囲まれ、清流長良川が流れ、史跡・旧跡が点在する
豊かな自然と藍川を愛する温かい人々が暮らすまち

・地域は学校の応援団！！

※藍川小学校開校以来、地域コーディネーターの方に受け継がれている言葉

⇒学校の言うことは、何でも聞いてやれ！！

藍川小学校と共に歩む藍川自治会連合会

令和4年は藍川50周年の年



合同会議

令和3年度 藍川北学園（藍川小・藍川北中）「小中一貫校 まなび・くらしの系統性」

学校の教育目標 立志・自主・連帯

学校経営の基本理念 命を守る・心を守る・夢を守る

	まなび		くらし		藍川で生きる		
中3	学びを豊かにする Talk マイスター 小集団学習・ICT活用	基礎・基本の定着と よさを伸ばす学習づくり 家庭学習 90分~180分	自主的・自治的な生徒会活動 四本柱（仲間・合唱・環境・学習） 北藍ハートコンタクト	仲間・地域に貢献する活動 学校・地域ボランティア 地域防災を支える活動	地域と共につくる 藍川健康ウォーク 夏祭り 小中学習会 小中交流遠足（特支）	自らの生き方を 追求する学習 高校見学 地域の職場 体験	SDGs 中総合「ほくらん」 
中2							
中1							
小6	計画的・自主的な 学習習慣づくり 家庭学習 60分~70分	自主的・実践的な児童会活動 わかあゆあいさつ なかよし班活動 藍川ハートコンタクト	仲間・地域に貢献する活動 感謝の会 委員会活動 あいさつボランティア	地域で考える 社会とのつながり 食・米作り 福祉学習	働く意味を考える ゲストティーチャー	小総合「わかあゆ」 	
小5							
小4	トークマイスター-中学年版 ペア・小集団学習	自主的な 学習習慣づくり 徐々に自分で宿題の〇つけ	学級づくり わかあゆあいさつ なかよしあそび 学級遊び	仲間・地域に貢献する活動 感謝の会 係活動 掃除ボランティア	地域で学ぶ 藍川の名所・寺社 町探検 学校探検	役割を果たす 係活動 花づくり	生活科 命・心・夢を守る学習
小3							
小2	トークマイスター-低学年版 ペア学習	親子で家庭の 学習習慣づくり 保護者が宿題の〇つけ				仕事に興味をもつ 花・野菜づくり 係・お手伝い	
小1							

藍川コミュニティ…地域行事への参加／地域貢献活動（ボランティア活動）／学びの共有化（学校教育＋公民館講座・家庭教育学級）

9年間を見据えた小中一貫校の取組

～「小中一貫教育」からの大きな変革・成果～

- ① 中学校教員による小4～小6における教科担任制
- ② 小学校教員による、中学校での免外指導の解消

○成果

・専門性を生かした指導で、児童・生徒の

○学ぶ意欲（主体的・協働的）

○学力（表現力）

の向上につながった。

③心をつなぐ異学年交流

- 小中合同縦割り班
⇒土曜授業での交流、縦割り学活、学校行事
- 小中合同通学班
⇒なかよし登下校、地域清掃、地区生徒会
- 兄弟学年 (小1・6 & 中3、小2・4 & 中2、小3・5 & 中1)
⇒算数学習会、百々ヶ峰登山、保育実習など
- 計画委員会(小)と生徒会(中)の合同会議

○成果

- 互いを尊重し合い、思いやりの心で接する
- 固定された人間関係を広げることにより、活動の中で自分の考えを相手に伝える力が伸びてきた。
⇒小集団学習の効果



土曜授業



なかよし登下校



生徒会＋計画委員会

④中1ギャップの解消

- 昨年度より、中学校内に6年生の教室を設置。

⇒プレ中学校体験を実施

⇒本年度は毎週火曜日を中学校で学ぶ日

- 本年度は全ての土曜授業を小中合同、地域・保護者連携

⇒小学生の靴箱を中学校に設置。

○成果

- 中学校に慣れて、スムーズな移行

- 小学生にとって、中学校も自分の場所（教室・靴箱）

⇒身近な存在に！

- 特別に配慮が必要な児童生徒

⇒小中の職員で共通理解を図ることが可能に！

○小中一貫校について小6・中3の児童生徒へのアンケート

①【小学校6年生】小中一貫校のよさ

「学習 60%」

- ・中学校の教科担任の先生の授業が楽しい。わかりやすい。
- ・中学校に上がるのが楽しみ。

「中学校での生活 28%」

- ・行けるのが楽しい。安心して生活ができる。
- ・中学校の先生や教室が分かってよさがあふれている。
- ・初めて行くと緊張するので、慣れておけるので困らない。

「行事 15%」

- ・小中学生が一緒に活動する行事がいい。
- ・顔見知りになって、よくあいさつをしてくれる。

②【小学校6年生】小中一貫校の課題

「行事 55%」

- ・小中学校でたくさんの行事や活動交流をしてみたい
- ・もっと仲を深めて、安心して中学校へ行けるようにしたい。

「委員会 15%」

- ・委員会を小中で同じにしてもいい。

「その他」

- ・あいさつをもっと増やしたい。
- ・中学生に授業を教えてもらいたい。
- ・中学校の部活動体験がしたい。
- ・中学生に昼休みに小学校に来て欲しい。
- ・6年生以外も中学校に行けるといい。

【中学校3年生】

①小中一貫校のよさ

「100%」・土曜授業など一緒に活動することが増えた。

・一緒だと人数も増える。

「その他」・生徒会によるあいさつ活動や算数学習会。

・小中の先生と触れ合えるし、小学校の先生にも会える。

・小中の先生の仲がよい。

・6年生が中学校で生活する日があり、中学校に慣れてもらえる。

・小学生の子といっても違和感も気まずさもない。

②小中一貫校の課題

「60%」・まだまだ関わりが少ない。
・日常的に話ができない。
・週に1回リモートで関わることができると良い。

「37%」・小中を行き来する先生が大変。
⇒小中を廊下でつないで欲しい。
⇒移動用の車を買ってあげて欲しい。

「その他」・お互いによく知っているから、この子はこういう子だ
というレッテルが貼られて、なかなか剥がせない
い。

③小中一貫校の最高学年として意識していること

「43%」・最高学年として手本となるよう学習や掃除、あいさつなど意識している。

「その他」・小学校の子に率先してあいさつしている。

・早めに登校して、あいさつ活動や草取りをしている。

・小学生と関わりのある行事を大切にしている。

・優しく接している。

・自分から話しかけるようにしている。

④今後藍川北学園がどのように発展していくことを望んでいるか

「50%」 ・ あいさつがあふれ、さらに仲のよい藍川北学園へ

「40%」 ・ 運動会や合唱祭を一緒に開催する。

「20%」 ・ 施設の一体化、完全に小中が合体できるとよい。
・ 毎日会える。

「17%」 ・ もっと過ごしやすい環境設備が整うとよい。（特にトイレ）

「その他」 ・ あいさつ活動や児童会・生徒会活動の交流ができるとよい。

・ 人数が増えて楽しくなるといい。

・ もっと地域とのつながりを深め、地域に愛される学校
になって欲しい。

地域の方の情熱でつくっていただけた
大切な藍川小学校・藍川北中学校
これからも、
地域に愛され、地域を巻き込み、地域と連動する
小中一貫校「藍川北学園」でありたい

コロナ禍において、
「一緒に」できることはかなり減ってしまったが、
児童・生徒・職員はコロナ禍でできることを模索して、
この50年間、常にお世話になってきた地域の方への
貢献活動を続けている。

地域に甘えすぎている学校 → 地域に貢献できる学校

<地域>

- ・授業・クラブ活動の指導
- ・青少年育成市民会議による子どもを主役にした行事
- ・登下校、校外学習での見守り
- ・学校の環境整備

<学校>

- ・青少年育成市民会議の方との合同会議を開き、地域行事への参画
- ・社会福祉協議会「小さな手助け」へボランティアで参加
- ・あいさつを通して、より心をつなぐ

学校 → 地域の方

<令和2年度>

- 手作りマスク300枚、メッセージを学校運営協議会、見守り隊の方に
- 敬老会中止を受け、全校生徒が手紙を郵送
 - ⇒敬老会に参加予定であった630人の方に
- 地域の方への感謝の気持ちを伝える「感謝の会」を小学校で開催
 - ⇒「全校で実施」を変えて、「学年ごと入れ替わり方式」で実施。

<令和3年度>

- 本年度も敬老会中止
 - ⇒記念品の中に中学生のメッセージカードを入れさせてもらった。
- 生徒による敬老会のメッセージを作成
 - ⇒公民館に掲示



合唱マスク



ワンタッチ白布



児童生徒の活動に対して、地域の方からのお返し活動

「**藍川大家族**」…今の藍川地区の大切な「キーワード」

小中の児童・生徒が、日々の「深い学び」や「生命の尊厳への理解」を深める土曜授業を通してつながり、地域を明るくする「あいさつ」や「貢献活動」で地域とつながり、これからも、より素敵な**藍川大家族**となっていくます。



算数学習会

藍川大家族の願う「藍川北学園」の姿

義務教育学校

児童生徒



地域



藍川北学園

藍川小学校

藍川北中学校

保護者



学校



施設一体型

2. 課題認識 ～探究的な学び～

- 「学び」に関する岐阜市の児童・生徒の実態、学校の現状
- 協議意見をもとに、本市が目指す「探究的な学び」のあり方
- その実現に向けた「課題」を以下のとおり、整理

児童・生徒の実態 学校の現状	本市が目指す 探究的な学びの在り方	実現に 向けた課題
<p>コロナ禍の臨時休業中等 ●自ら学びを創り出せない</p> <p>○自分で選択して学ぶ (草潤中学校) ↓ ●選択した責任に弱さ</p> <p>○9年間を見据えて育む (小中一貫校:市内4校) ↓ ●子どもの学びが中学校 進学でリセット(多数)</p>	<p>学びの主体が子どもに ↓ 学ぶ中身を 子どもが選択し、 子ども自身が 考えて行動する</p> <p>9年間一貫した学びに ↓ ・小中の学びのリンク ・地域と連動する教育</p>	<p>教師主体の学びから 子ども主体の学び への転換</p> <p>9年間を通して 児童・生徒が 身に付ける力の明確化</p> <p>コミュニティ・スクールの 仕組みを生かした 生きる力の育成</p>

3. 施策の検討における視点

- 以下の必要視する施策を一つずつ見定め、関係者間で検討・合意し、しっかり実行に移す

実現に向けた課題

子ども主体の学びへの転換

- ・教師の役割に関する意識改革（「教える」から「支える」へ）
- ・子どもが「学びをアウトプット」する機会を増やす
- ・幼小連携による「遊び→学び」への変換

9年間で、児童・生徒が身に付ける力の明確化

- ・小中連携の充実、小中一貫校の拡充
- ・9年間を見据えた、子どもの学び方・教師の支え方
- ・生き方の探究学習をコンパスカリキュラムに反映

コミュニティ・スクールの仕組みを生かした生きる力の育成

- ・地域と共にある学校づくり

施策の方向性や
内容について
各種会議で
検討・合意



各関係者が取組み実施



4. 本日の協議の流れ

- 事務局及び招聘者からの説明を踏まえ、以下の事項について、ご協議いただきたい

協議の流れ	
(1) 事務局説明	松中 審議監 <ul style="list-style-type: none">● 草潤中・ハイブリッド式授業の実践紹介と、その成果・課題● 本市が見据える「子どもが主体の学び」の方向性と検討課題
	中谷 校長 <ul style="list-style-type: none">● 小中一貫校の実践紹介と、その成果・課題● 本市が目指すべき、「9年間一貫した学び」の方向性と検討課題
(2) 招聘者説明	塩瀬様 <p>「問い」から考える、</p> <ul style="list-style-type: none">● 教員や地域の大人のあるべき、子どもとの関わり方について● これからの学校に望まれる役割、あるべき姿について
(3) 意見交換	ご協議いただきたいこと

1. 本市の学校が見据える「子どもが主体の学び」について
2. 本市の学校がこれから目指していくべき「9年間一貫した学び」について

- 昨年度に続き、**教育大綱の実現**に向けた協議を展開し、**教育立市の更なる深化**を目指す

岐阜市教育大綱が掲げる**基本理念**及び**目指す姿の実現**に向けて、

昨年度までの**協議の軌跡**、具現化した**施策**との**連環**を意識しつつ、

市長と教育委員会による協議・調整のもと、**更なる教育施策の検討・推進**を図る

1. 次年度に取り組むべき施策を具体化し、**立案**する
2. 中長期的に取り組む施策の方向性・見通しを共有する



「こどもファースト」の理念に基づく**教育立市の更なる深化**

(参考) 会議日程

- 今年度、以下のとおり計6回の会議を開催予定、施策協議及び大綱に定める成果検証を行う

※ 時間は各回、13:30~15:30を予定

回	日程	場所	協議事項	招聘者による話題提供(予定)
第1回	7/20 (火)	庁舎大会議室	協議(学校・教職員) 各学校の共通課題の解決 (現状分析・課題認識)	<ul style="list-style-type: none"> ・国の学校教職員の働き方改革の全体像 ・今後の部活動のあり方の方向性を提示
第2回	8/30 (月)	庁舎大会議室	協議(学校・教職員) 各学校の共通課題の解決 (施策の方向性・概要検討)	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用した業務改革の更なる視点 ・部活動の地域移行の先進事例紹介
第3回	10/13 (水)	庁舎大会議室	協議(子ども) 子どもの学びの構造転換	<ul style="list-style-type: none"> ・探究的な学びを支える大人の問い・関わり方 ・これからの学びに応える、学校のかたち
第4回	11/16 (火)	メディアコスモス かんがえるスタジオ	協議(家庭・地域) 子どもを守り育てる教育力	<ul style="list-style-type: none"> ・サードプレイスの更なる役割・可能性の広がり ・地域の大人が魅せる、育むシビックプライド
第5回	12/24 (金)	メディアコスモス かんがえるスタジオ	協議(DX) 学びを創るDXの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTが常に隣り合う次代の学びの姿 (デジタルシティズンシップ教育への転換)
第6回	1/6 (木)	庁舎大会議室	施策推進状況に対する成果検証 年間総括(今年度協議成果)	<ul style="list-style-type: none"> ・「生き方の探究学習」カリキュラムの更なる発展・充実に繋がる、示唆・助言

(参考) 会議ロードマップ

●協議の成果として、次年度の施策を具現化 及び 施策の中長期的な方向性・見通し を得る

